



日本YMCA同盟特別企画



みつかる。つながる。よくなっていく。

戦禍を逃れて四年

Через три роки після порятунку від руйнівної війни

ウクライナ避難者が自ら語る

「いま」、「これから」

Українські евакуйовані розповідають власні історії про "теперішнє" та "майбутнє".

2/21^土 13:30-17:00



WE SUPPORT
THEIR LIVES.

帰国か定住か、厳しい自立への道

Повернутись додому чи залишитись тут,
складний шлях до самозабезпечення



第1部：Частина 1



1. ウクライナ避難者をめぐる全体概況報告

Оглядовий звіт про українських біженців

YMCAウクライナ避難者聴き取り調査結果を踏まえて
Результати масштабного анкетування українських евакуйованих

日本YMCA同盟：横山由利亜

Громадська Благодійна Асоціація YMCA Японії：Юрія Йокояма

YMCAウクライナ避難者支援活動



ウクライナ避難民: 現在の在留者数 1967名 (総来日者数 2868名)

ウクライナ出国から日本入国・生活開始にかかわる支援

78件 / 166名 (2026年1月31日現在)

来日後の生活相談・交流会参加、日本語クラスなど

1,814名 (上記166名含む)

東京都との協働

ウクライナ大使館との協働



令和4年7月

ポポートヌィク・トーキョー Попутник Токіо について 東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業

※ポポートヌィク：寄り添う伴走者

マッチング内容	件数
物資	339件
日本語	319件
就業	372件
手続き	443件
財政	290件
教育	266件
医療・メンタル	273件
生活・やりがい	178件
その他	170件
合計	2650件

2026年2月現在



ウクライナ大使館より寄付金を受領
2022年4月



在日本ウクライナ人
コミュニティとの
連携



実施体制

各主体が得意分野に応じて
役割分担し、連携・相互補完

- 避難民の状況把握、課題整理、マッチング支援
- 交流の機会の企画・実施

三者協定

- 国際交流協会や外国人支援団体等との連絡調整
- ワンストップ相談との連携
- つなぎ先や都への言語支援

(生活文化スポーツ局)

- 都庁各局施策との連携
- 国・区市町村との連絡調整
- 区市町村をはじめ支援主体と情報共有等の機会の設定



YMCA
ウクライナ募金
避難者支援

出入国在留管理庁のサイト内データより作成

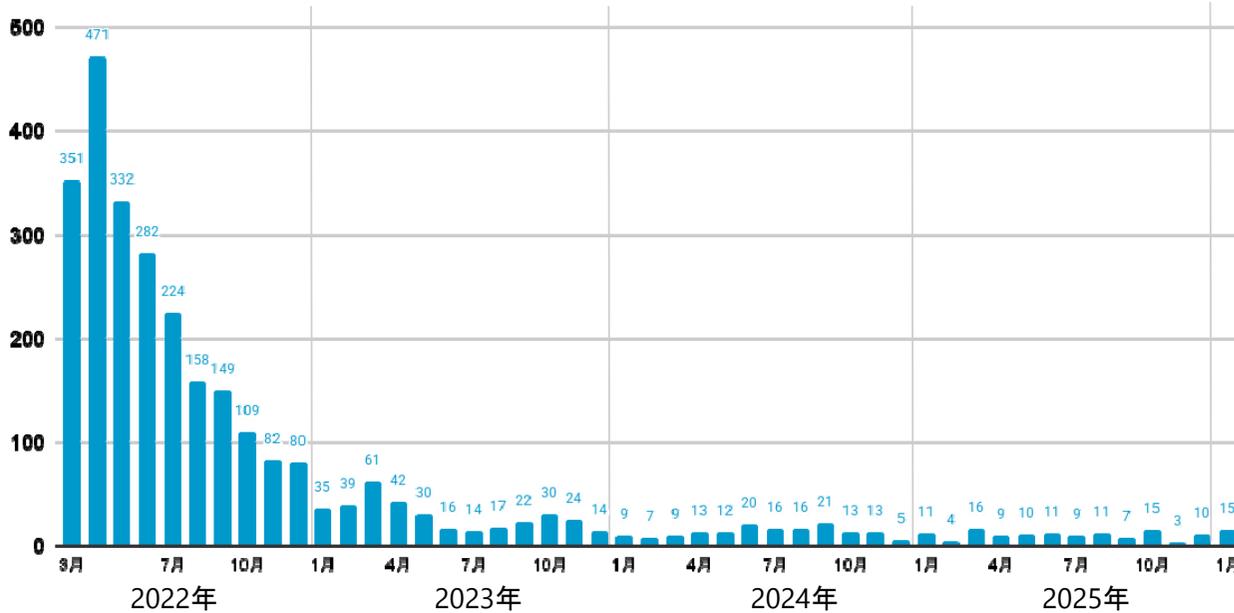
2022年3月以降

日本に避難してきたウクライナ人 (2026年1月現在)



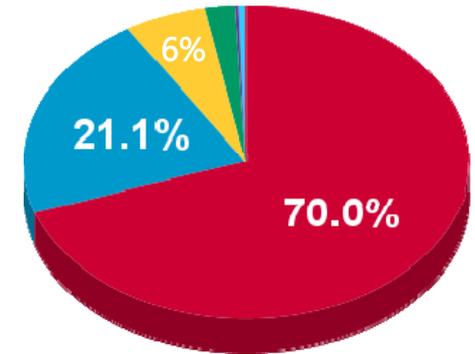
みつかる。つながる。よくなっていく。

月別のウクライナ避難民入国者数



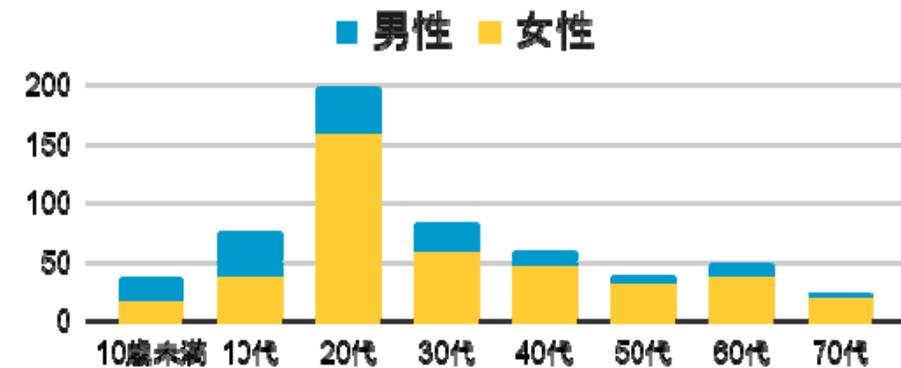
都営住宅に住むウクライナ避難民世帯人数別構成

- 1人世帯
- 2人世帯
- 3人世帯
- 4人世帯
- 5人世帯
- 6人世帯



都道府県別ウクライナ避難民在留者数 (TOP5)

	東京都	千葉県	神奈川県	大阪府	愛知県
在留者数 (全在留者数に 占める割合)	655人 (33.3%) ↗	174人 (8.8%) ↗	165人 (8.4%) →	136人 (6.9%) ↘	121人 (6.2%) ↘



避難者支援活動の変化

	第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
時期	2022年3月～	2022年5月～	2022年7月～
形態	来日避難・緊急支援 命の危険回避・渡航支援	生活スタート支援 住居・住民登録・ネットワーキング	生活個別支援 教育・就労・心のケア
概要	<p>ヨーロッパYMCAと連携し、ウクライナからの出国から来日までの支援、空港出迎えや国内移動の補助、ホテルでの隔離、住宅への案内などという一連の支援を継続する。</p> <p>5月がピークとなったが、戦禍激化を受け現在でも来日避難の相談は続き、一つ一つ対応し、来日を支援している。</p> 	<p>住居手配から保育園探し、日本語学習の機会提供など日本での生活をスタートするための支援を展開。交流・学びの場、居場所として「Ukraine Café HIMAWARI」をオープンし、物資支援、猛暑対策などを伝える生活講座や無料バザーなどを実施。ウクライナ語で読める児童書を集めた図書館の開設と運営を開始した。</p> 	<p>都営住宅などへ個別訪問を実施し、ヒアリングによるニーズ把握と支援策とのマッチング支援を展開（現在も継続）。</p> <p>「キャリア相談」「ハローワーク・病院同行」「子どもの宿題サポート」等、各家庭の個別支援から、体調不良につながる心のケアの取り組みなど、多様な支援活動を行う。</p> 

避難者支援活動の変化

	第4フェーズ	第5フェーズ
時期	2023年1月～	2024年1月～
形態	中長期 滞在定住 支援 人生設計に関わる相談	長期滞在・定住伴走 支援 定住か、帰国か
概要	<p>22年秋から大規模な攻撃によって中長期化を覚悟せざるを得ない状況。就業、子どもの教育、本国の家族との関係など人生設計に関わる相談事項が増える。罪悪感や将来への不安と向き合いながら、日々の生活、日本のコミュニティとの橋渡しなど多岐にわたる対応。</p> 	<p>3年目を迎える時期になり、2023年12月より最長で5年の定住ビザ（査証）取得を可能とする制度が始まった。日本での進学や就職を含めた長期滞在を視野に入れる避難者が増えてきたことでYMCAの支援活動もより個別具体的な伴走支援を継続していく。</p> 

2023年12月 「補完的保護対象者認定制度」開始

準難民制度：ウクライナ避難民などを難民に準じて保護

最大5年間の「定住者」資格

定住支援プログラム
(原則半年間、審査あり)

宿泊施設の提供と生活支援
(定住支援プログラム受講期間中)

日本語教育 (572時間)

生活ガイダンス (120時間)

最近の避難民の動向（2026年2月）

◆ 「母子・高齢者」中心から 「単身の若い男女」へ

- 徴兵を目前に控えた16～17歳男性
- 20代の男女



一時受入れの
留学が終わり、
これから・・・

◆ 障がい者

◆ 家族の呼び寄せ

◆ 地方から都心へ

◆ 帰国支援を利用して帰国

◆ 帰国するも再避難

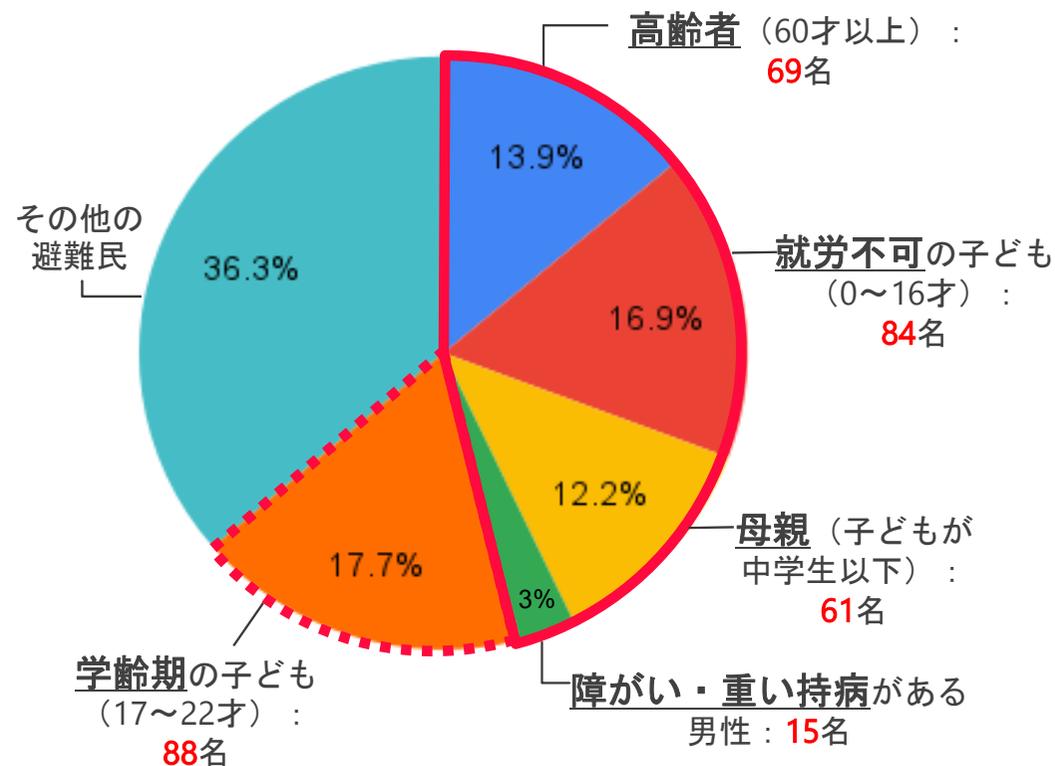
公的財政支援終了後
の来日



【最大のチャレンジ】
2025年各種財政支援終了

支援団体のテーマ
「経済的な自立に向けて
道筋を整え、実現する」

都営住宅居住者における
持続的な就労が困難な人びと



自立への道筋：キーポイント

地元で母親をどう支えるか

- (1) 就労や日本語習得に遅れ
 - (2) 子どもがWスクール
 - (3) 子どもの教育・進学への不安
 - (4) いまの居住地の生活継続を希望
- 日本語教育機関へのつなぎ、子育てと両立可能な就労環境とキャリア形成
 - 就学・進学の詳細なサポート



自立への道筋：キーポイント

- (1) 健康状態への不安
- (2) 地域の福祉サービス等の情報を把握できていない
- (3) 日本語ができず、孤立の恐れ

- 受け入れ家族への情報提供
- 定期健診・居場所づくり・住民交流・楽しい日本語



自立への道筋：キーポイント

日本文化への憧れが原動力

- (1) 社会経験・ロールモデル・相談相手が不足
- (2) 経済的な自立に向けた具体的な将来設計が不十分
- (3) 孤立感、メンタルヘルス

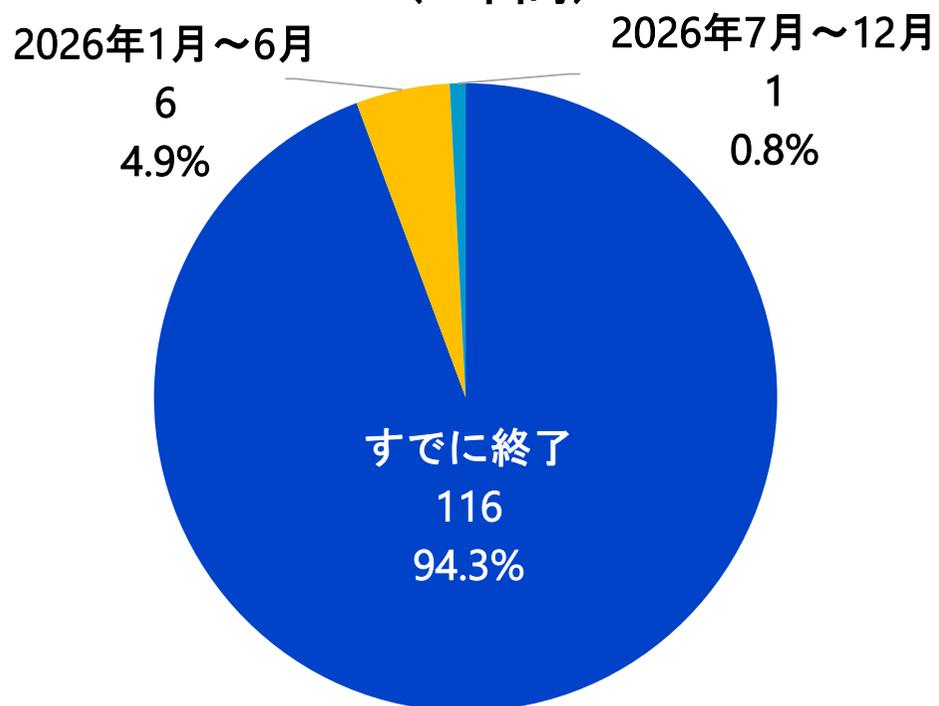
- 就学や就労支援に関する相談窓口、日本の友人づくり
- スポーツや野外などの心身形成の機会



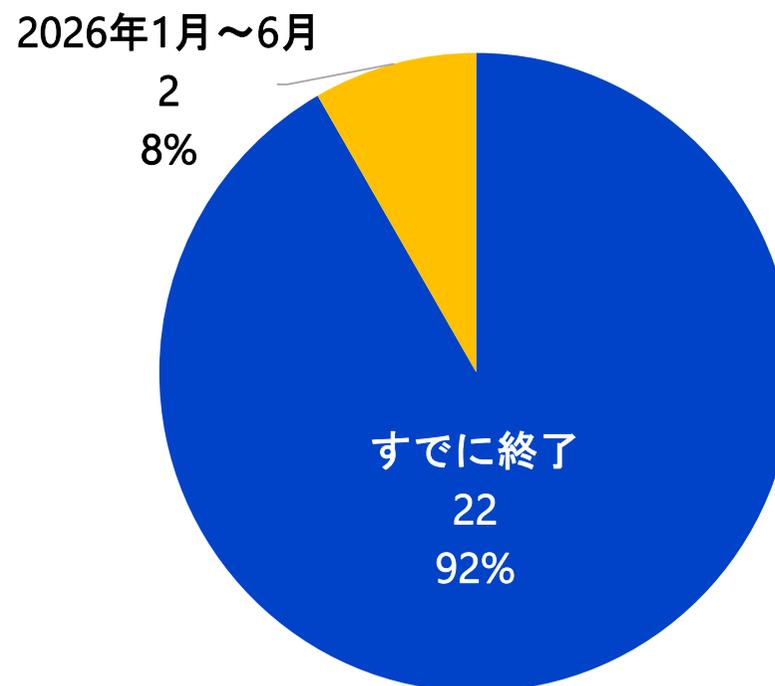
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q. 生活費の支援はいつ終了しますか？

【日本財団】
(3年間)



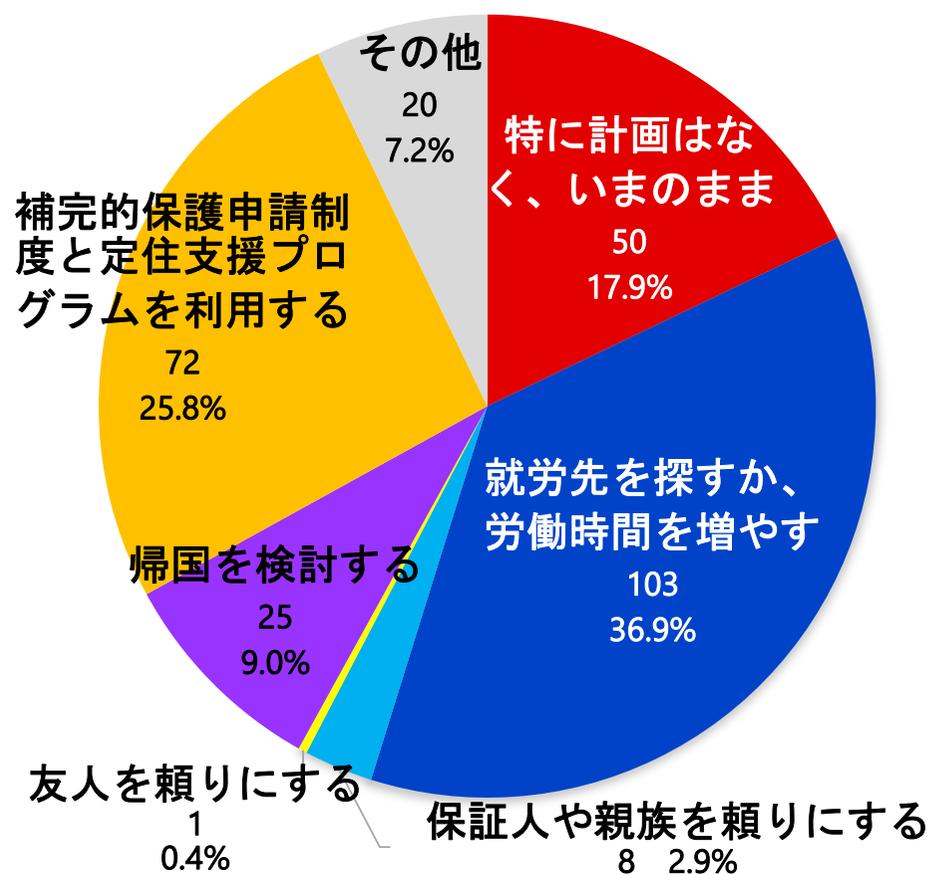
【日本政府】
(2年間)



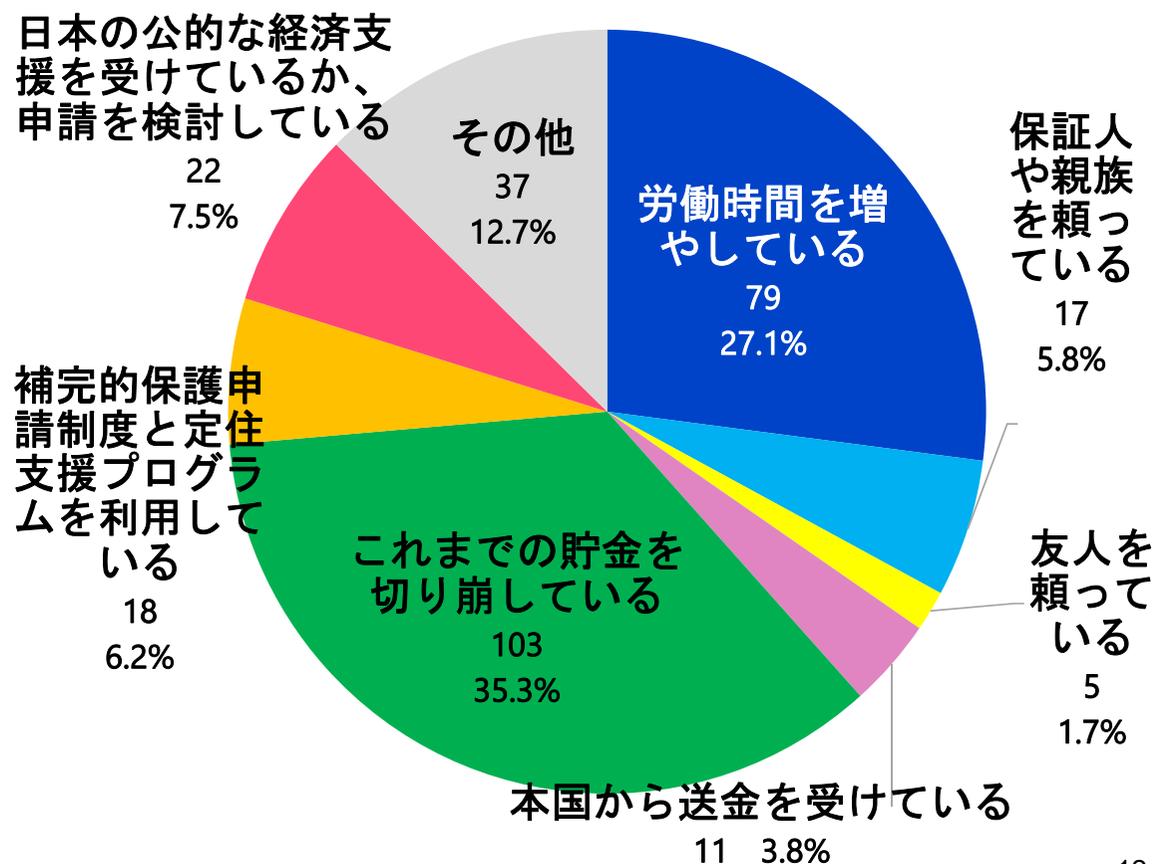
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q. 生活費の支援終了にあたって現在の計画は？

2025年



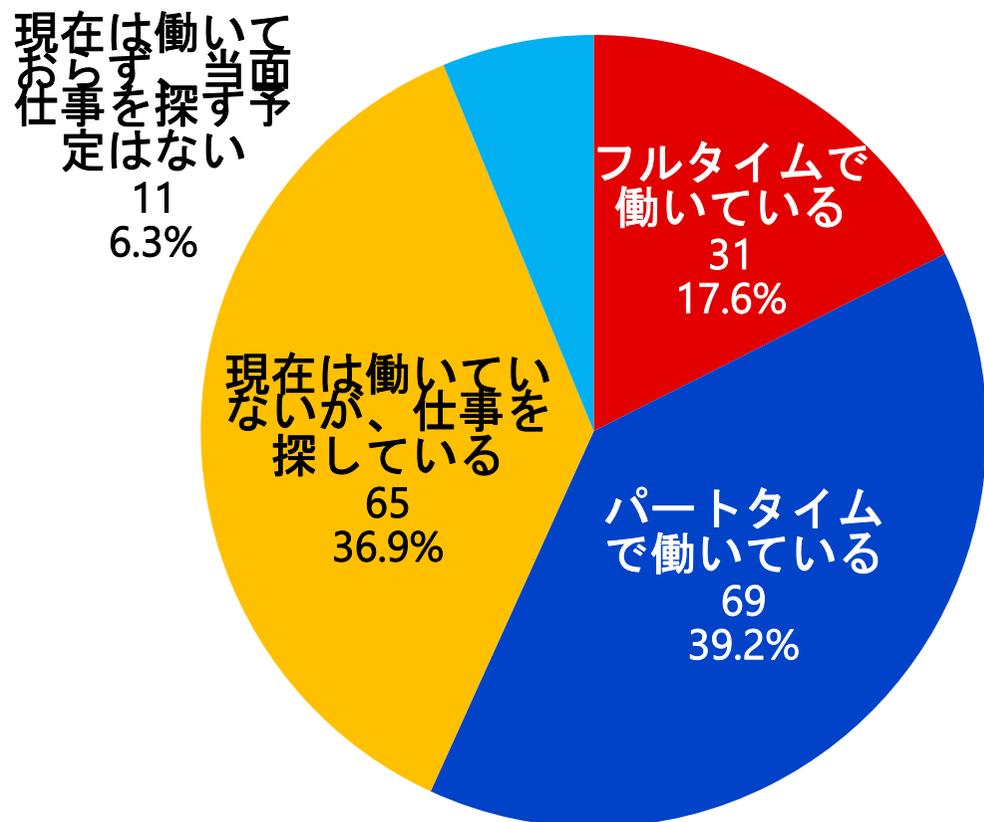
2026年



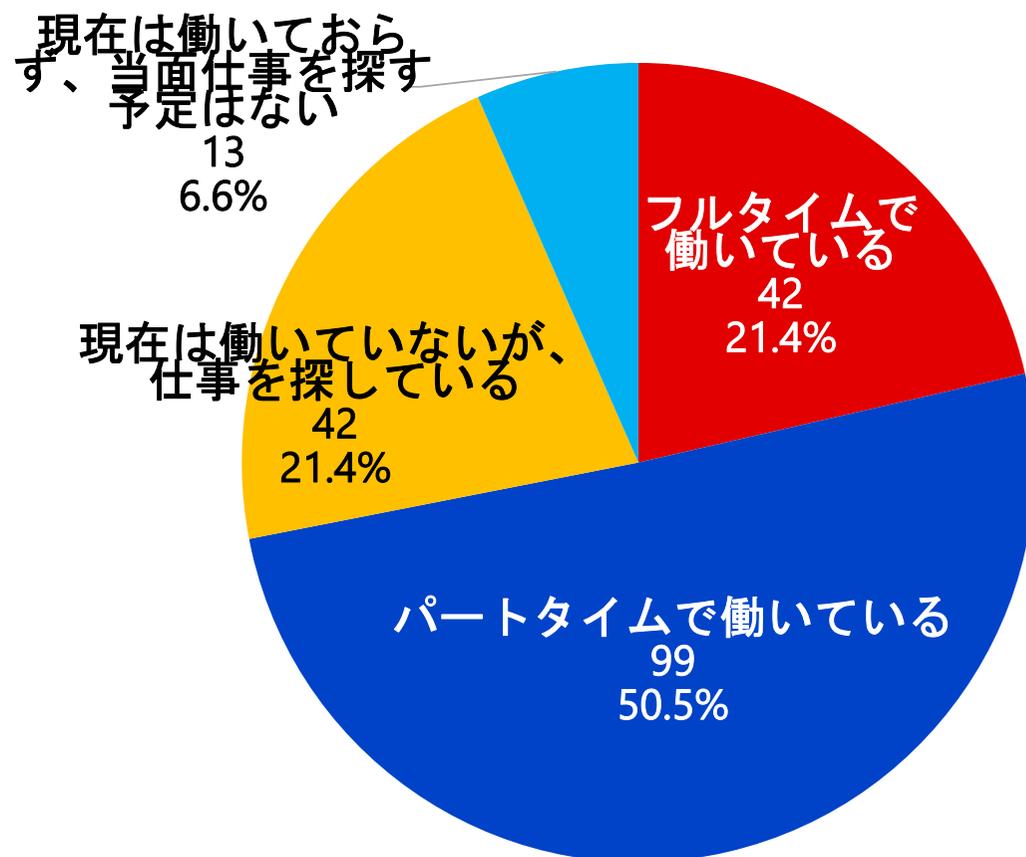
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q. 現在の就労状況を教えてください

2025年

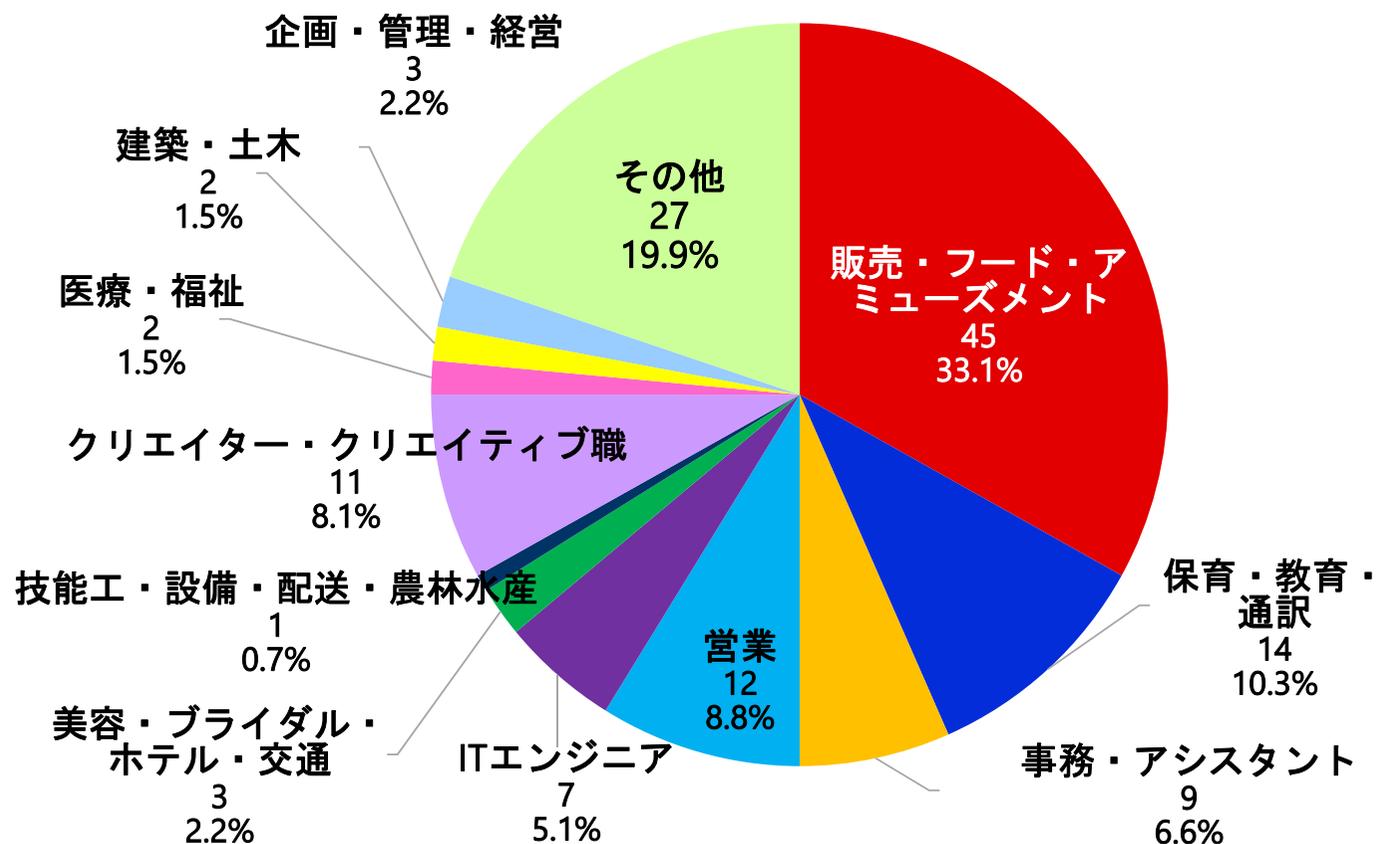


2026年



2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.就労先の職種を教えてください



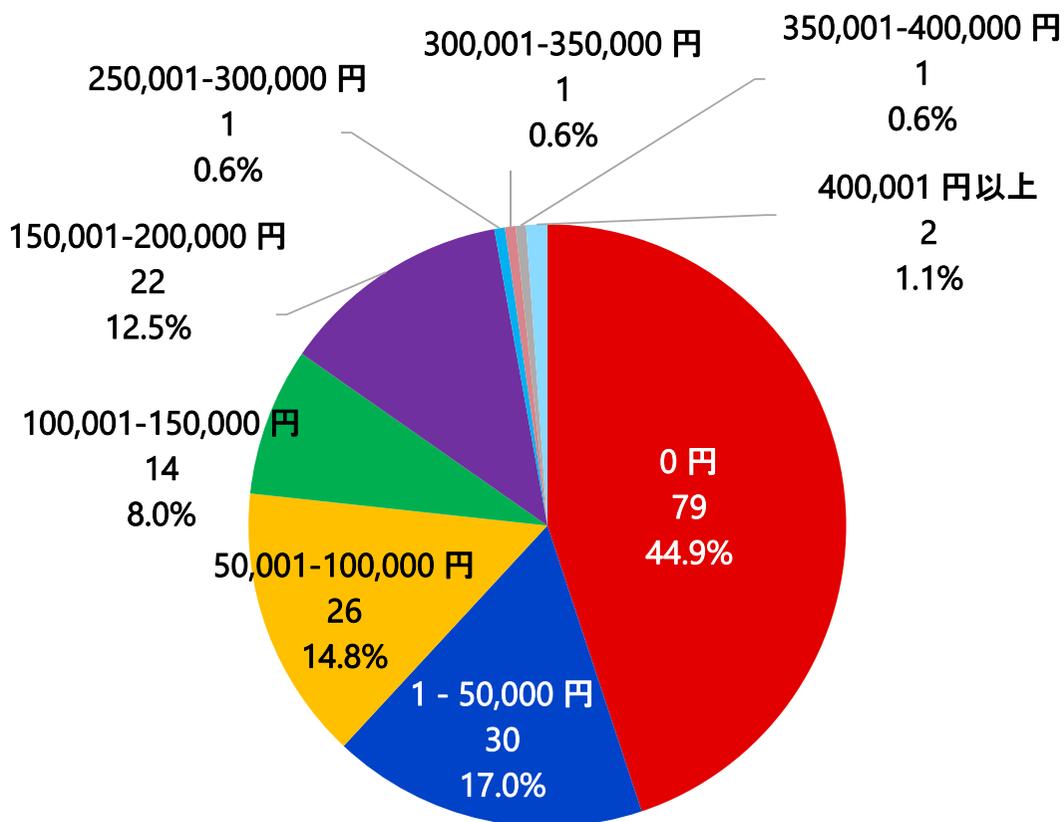
【就労先】

- ・ノジマ
- ・ドン・キホーテ
- ・幼稚園、放課後施設、語学学校
- ・Youtube
- ・飲食店
- ・ニトリ
- ・工場
- ・配送会社
- ・ホテル
- ・オンライン事業 など

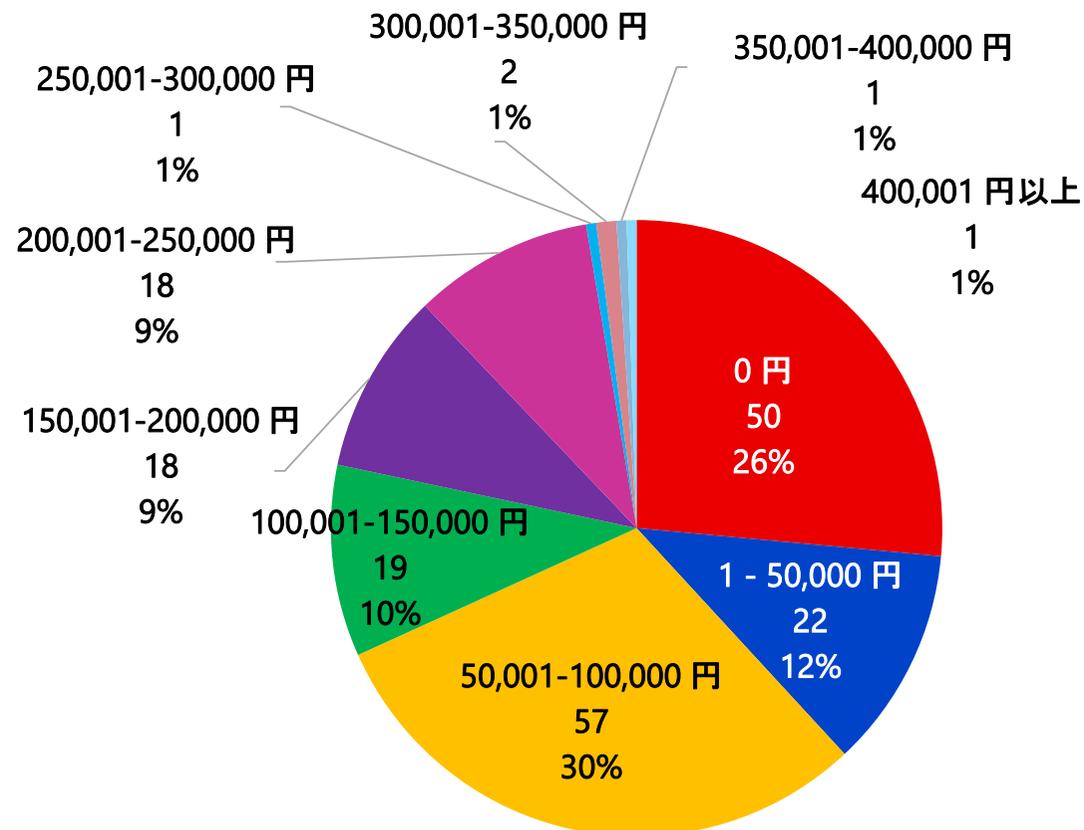
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q. 得ている**給与**を教えてください

2025年



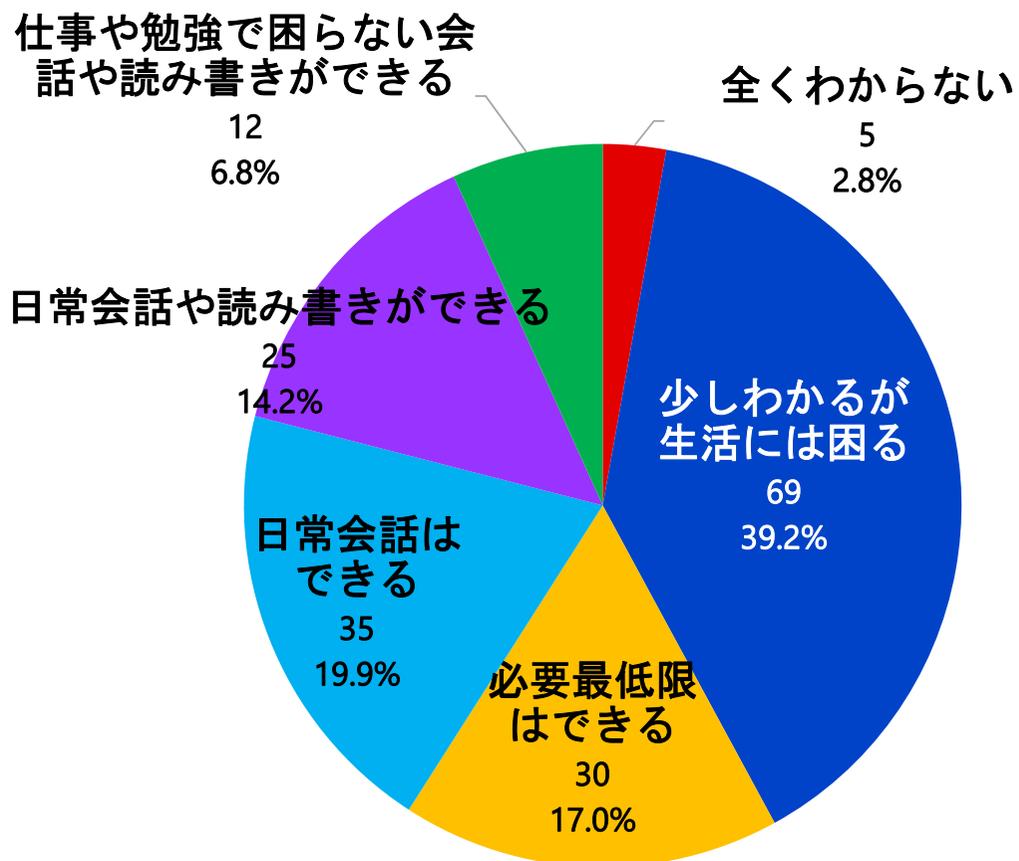
2026年



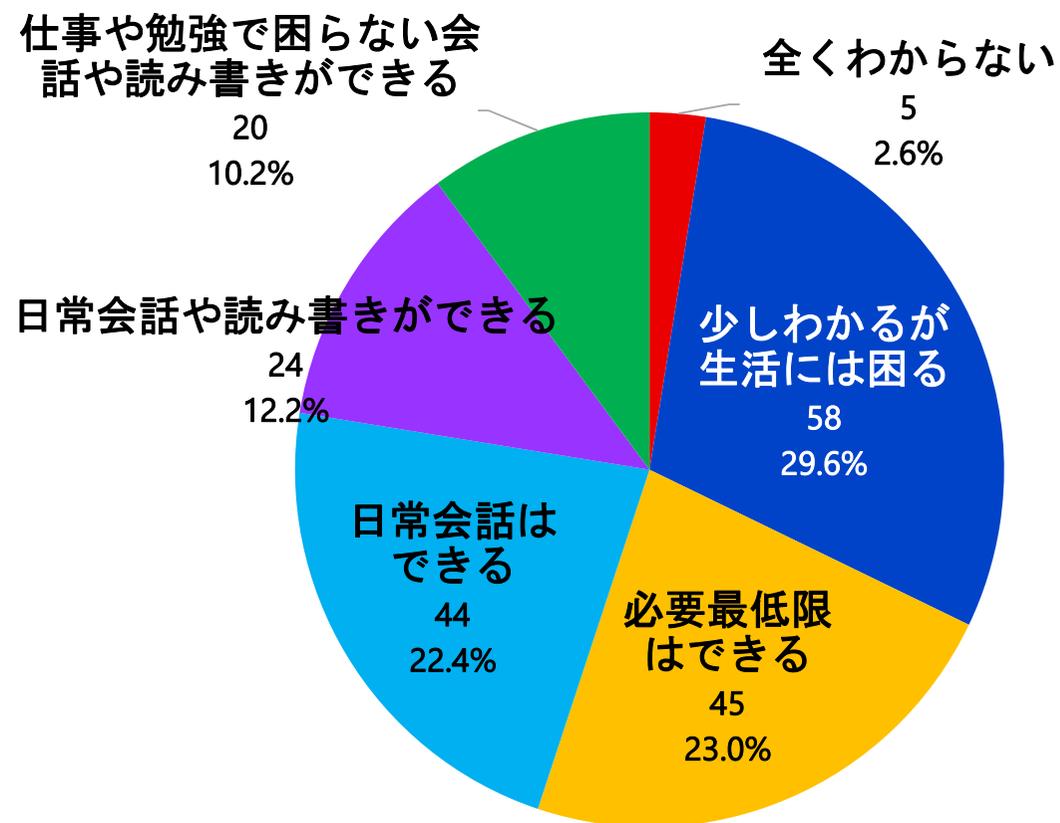
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.日本語レベルを教えてください

2025年

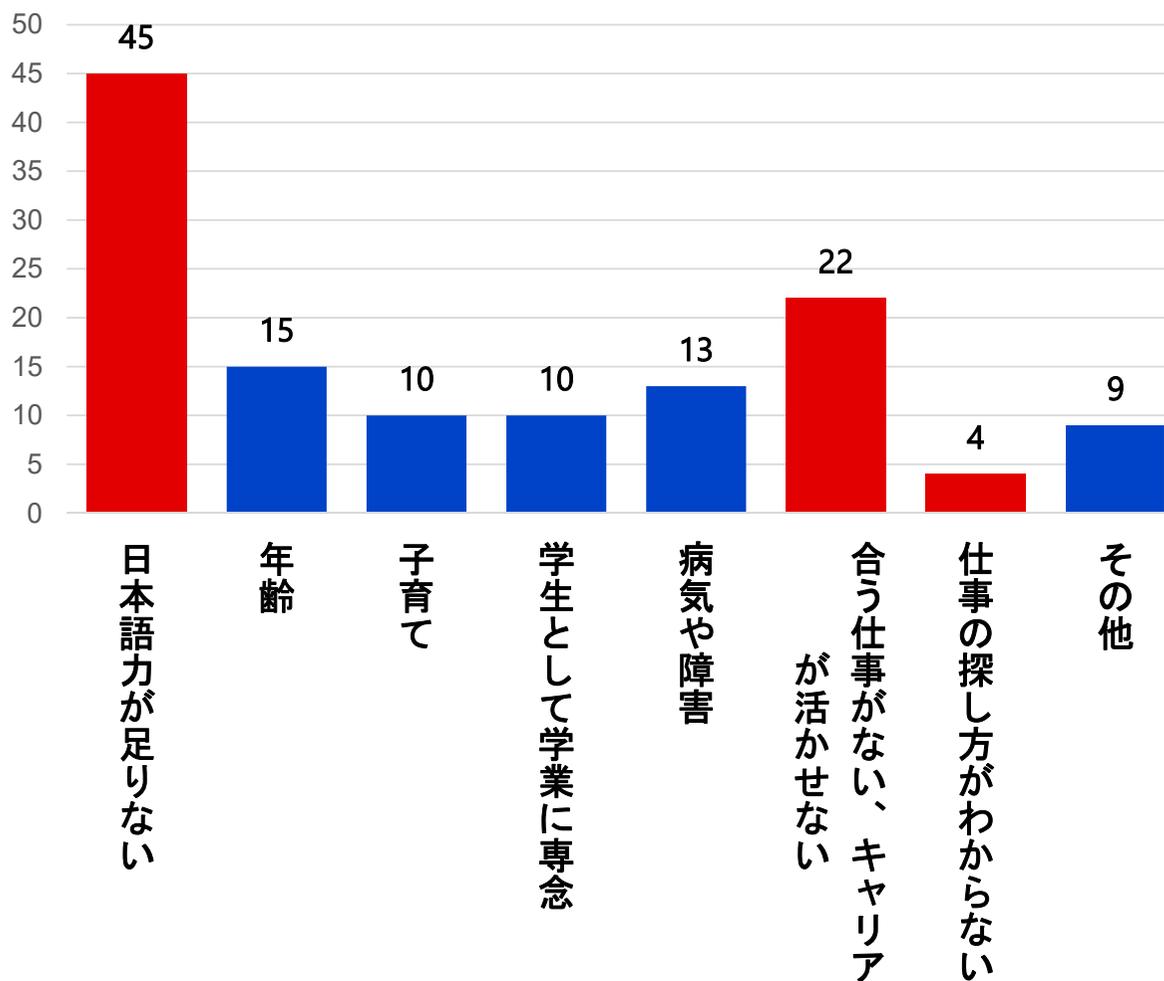


2026年



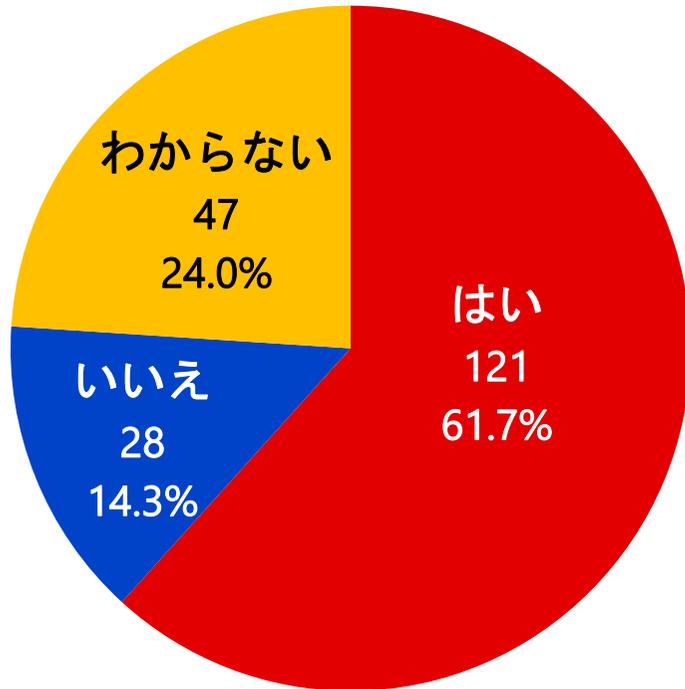
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.就労していない理由を教えてください

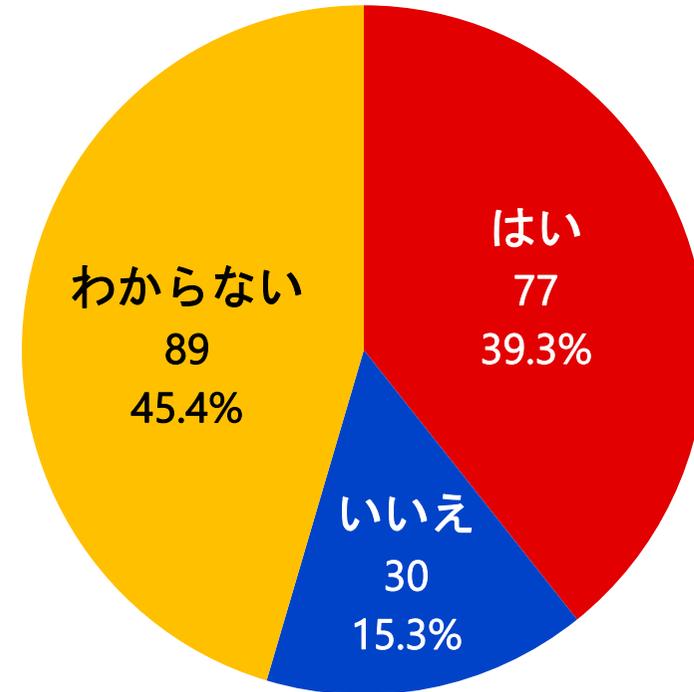


2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.希望する職種がありますか？



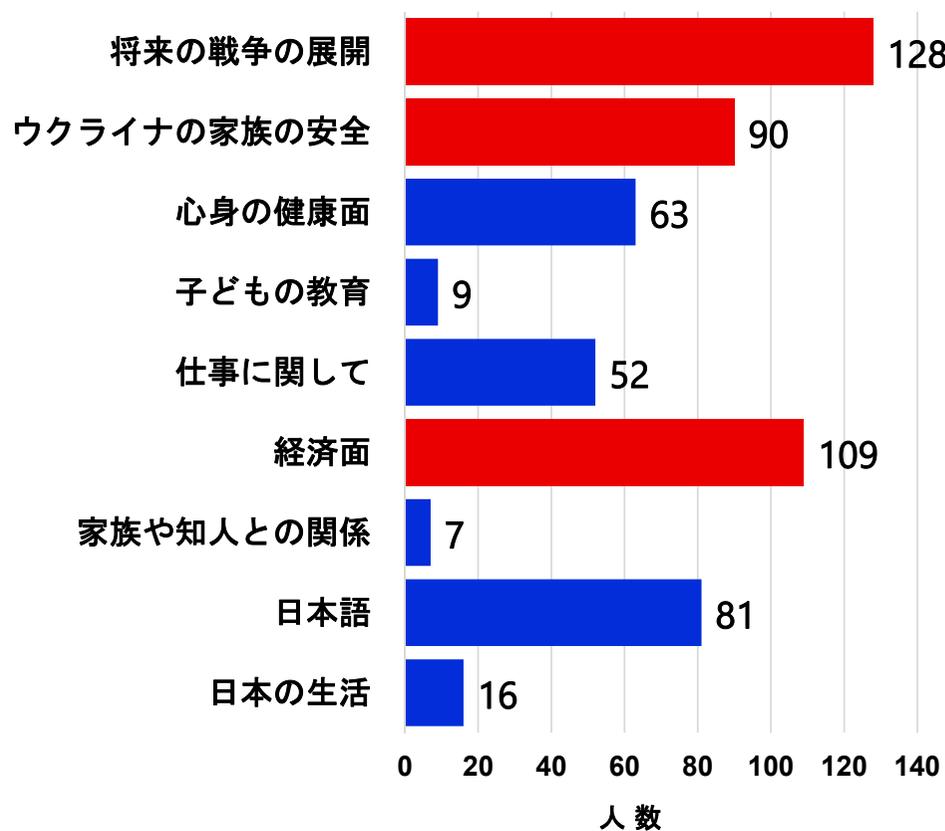
Q.日本で希望する職業に就けるとおもいますか？



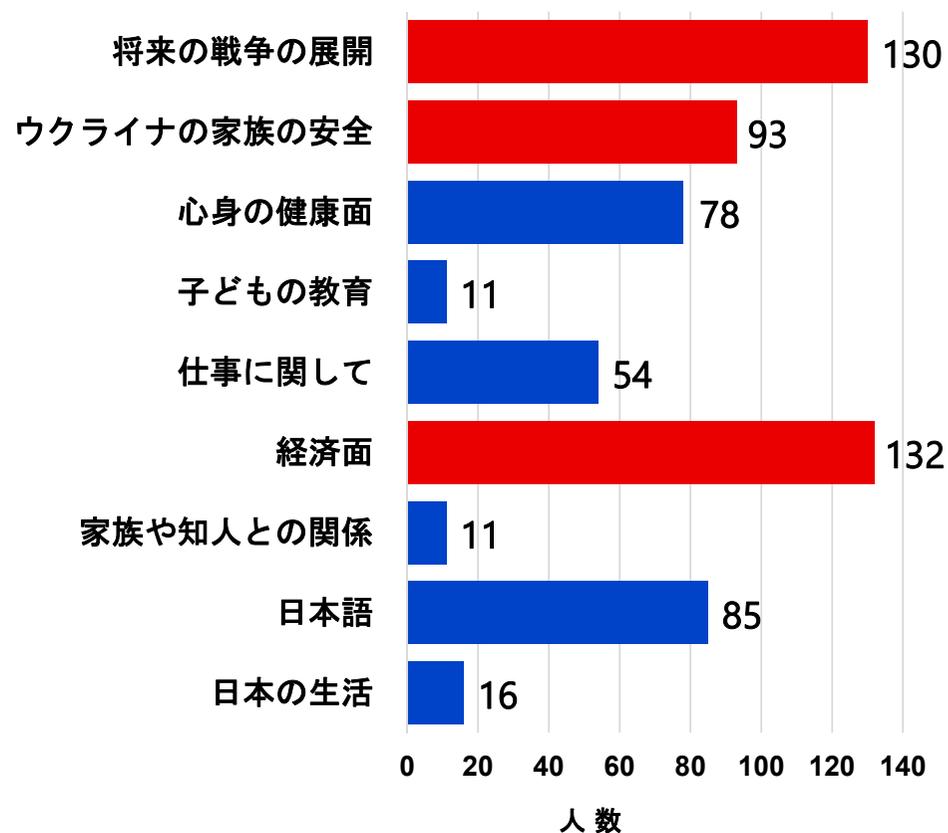
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.今、日本の生活で困っている点・不安な点は何ですか？

2025年



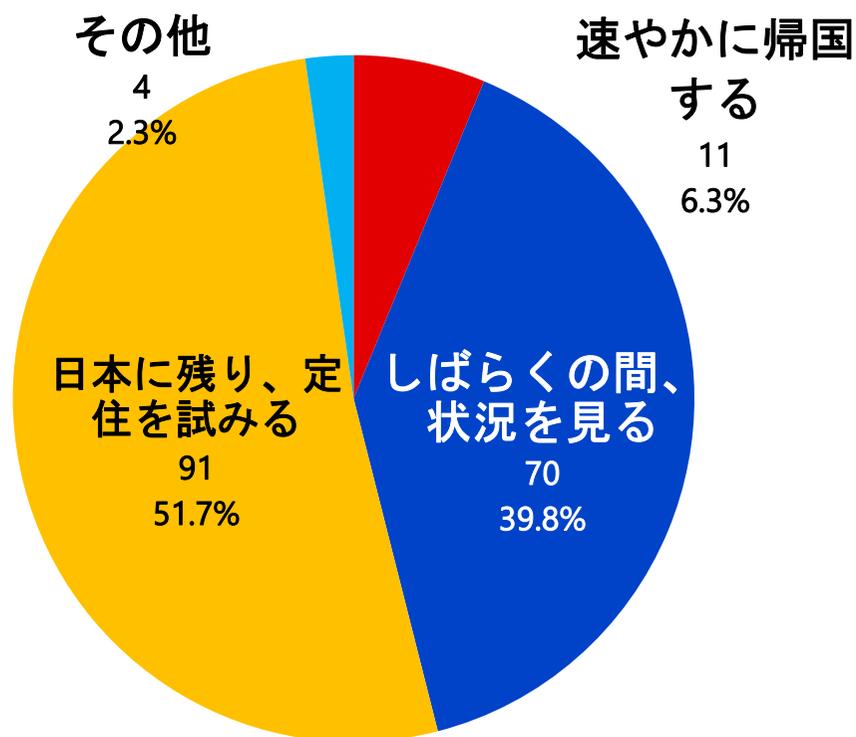
2026年



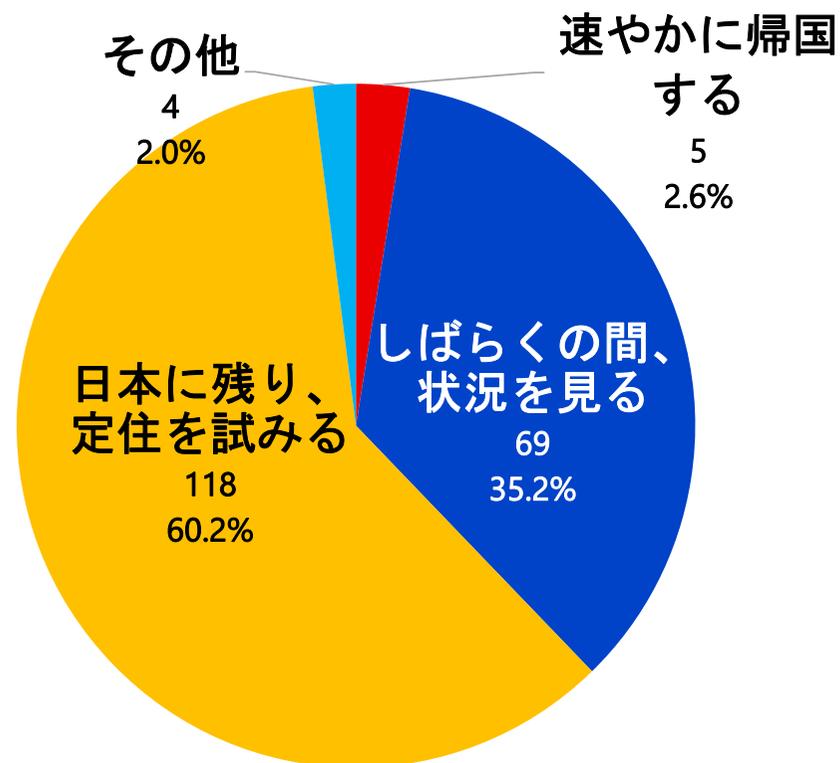
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.戦争が終了（停戦・休戦）した場合、
どのような選択を希望しますか？

2025年



2026年

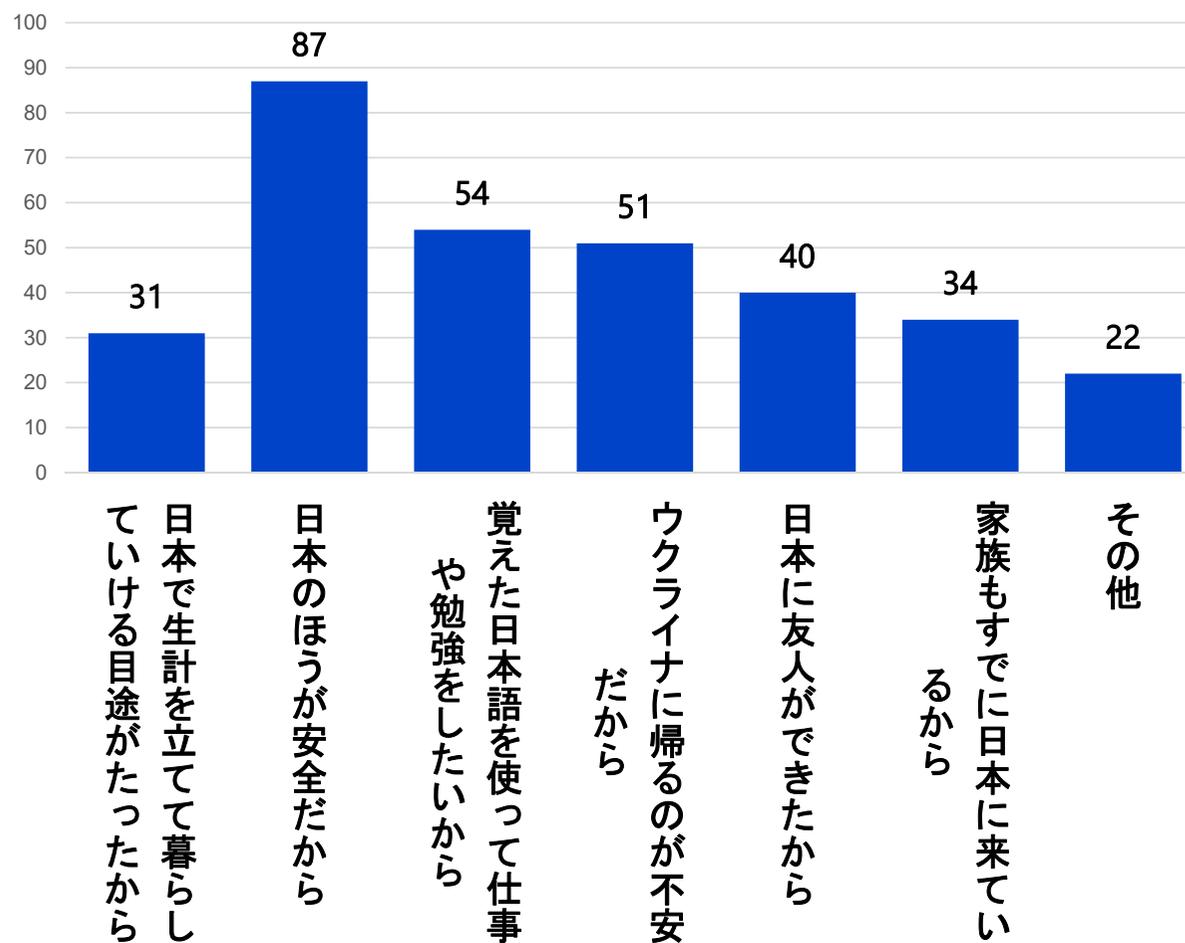


2026年1月実施の避難者アンケート結果より



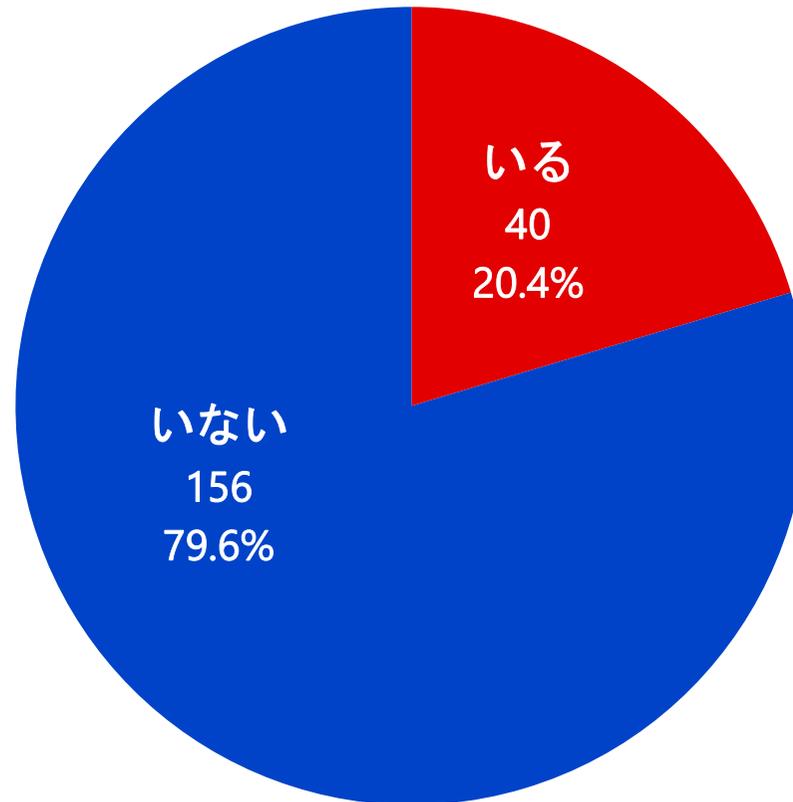
みつかる。つながる。よくなっていく。

Q. 『日本に残り、定住を試みる』と答えた方：その理由は何ですか？



2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.停戦・休戦に関わらず帰国の可能性を検討していますか？

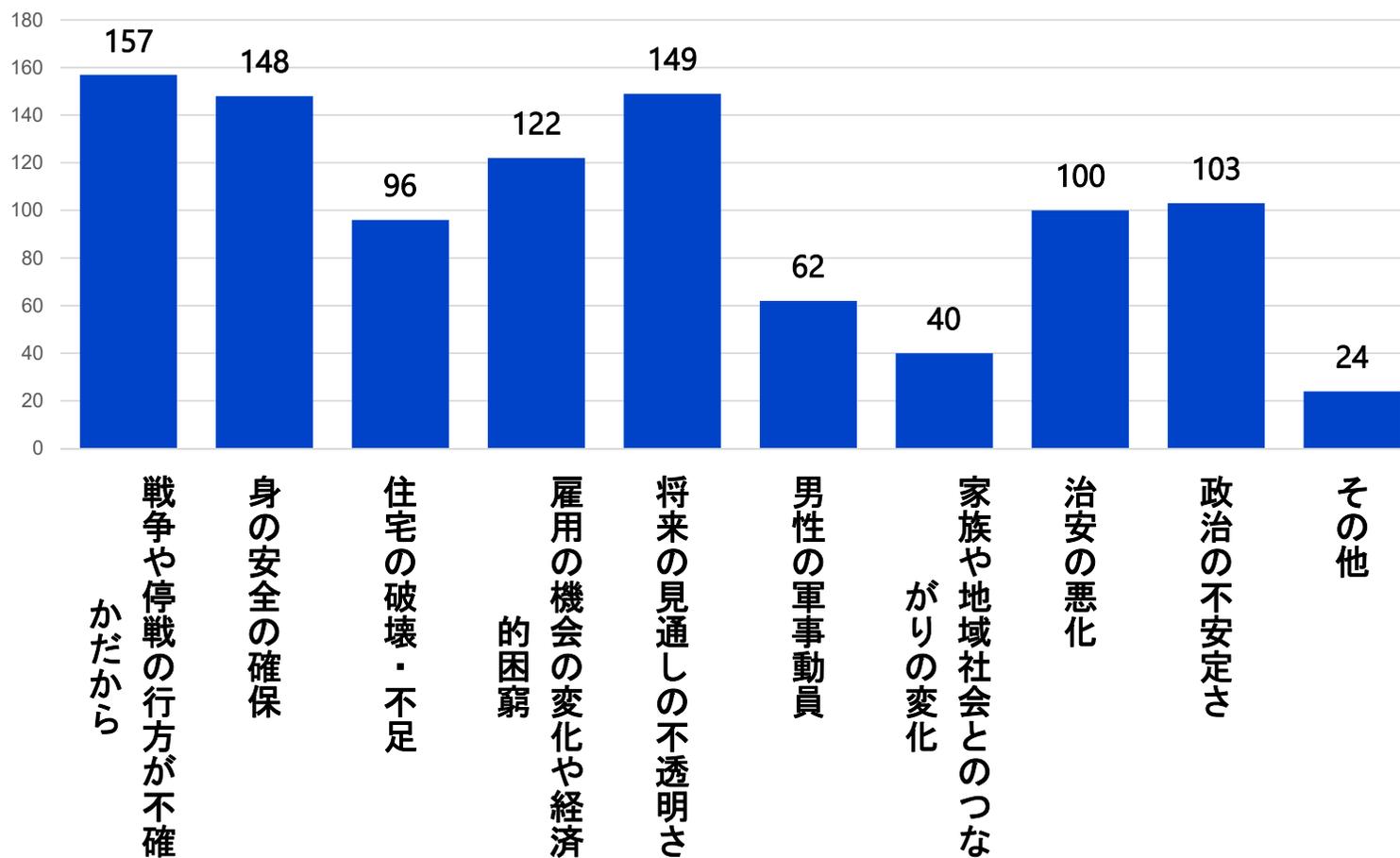


2026年1月実施の避難者アンケート結果より



みつかる。つながる。よくなっていく。

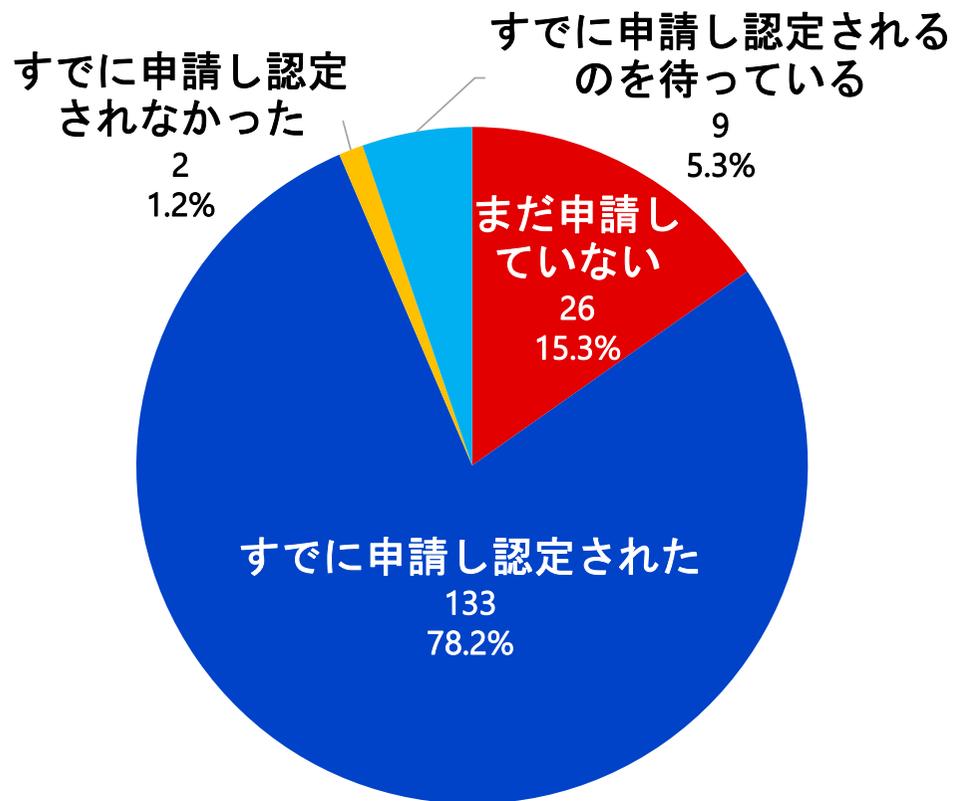
Q.帰国を検討するにあたっての課題・懸念事項はなんですか？



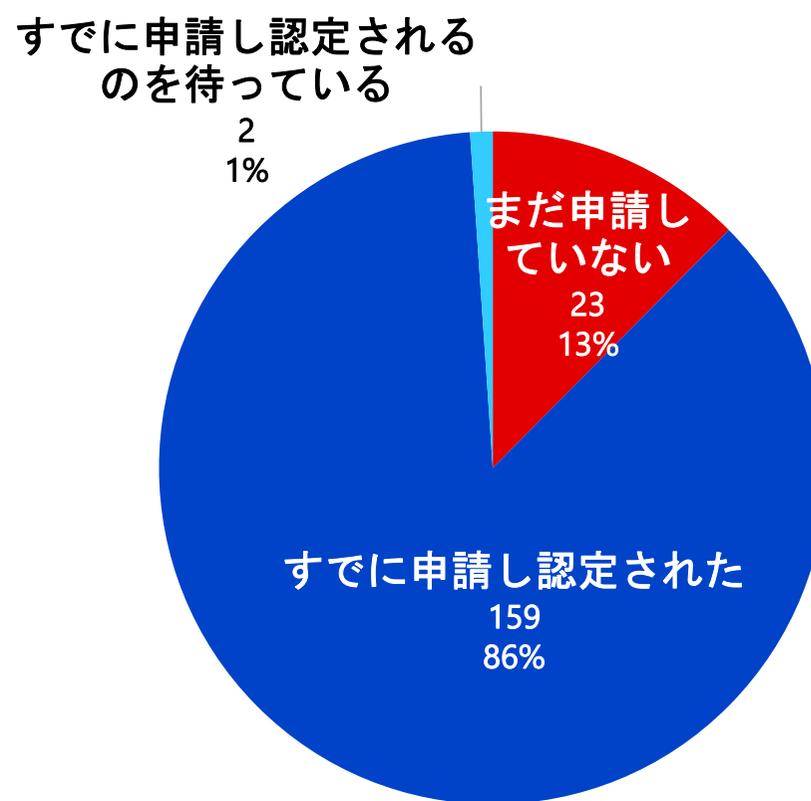
2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.補完的保護対象者認定に申請しましたか？

2025年



2026年



2026年1月実施の避難者アンケート結果より



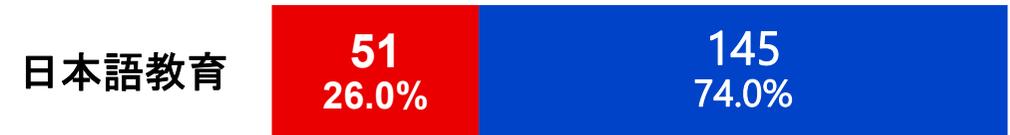
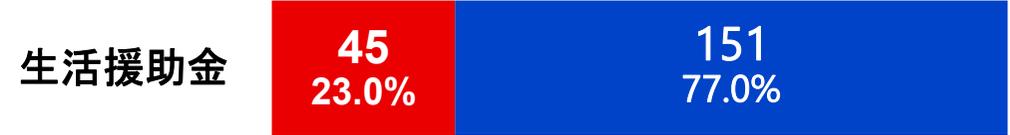
Q.定住支援プログラムを受講しましたか？

2025年



■ 受講した ■ 受講していない

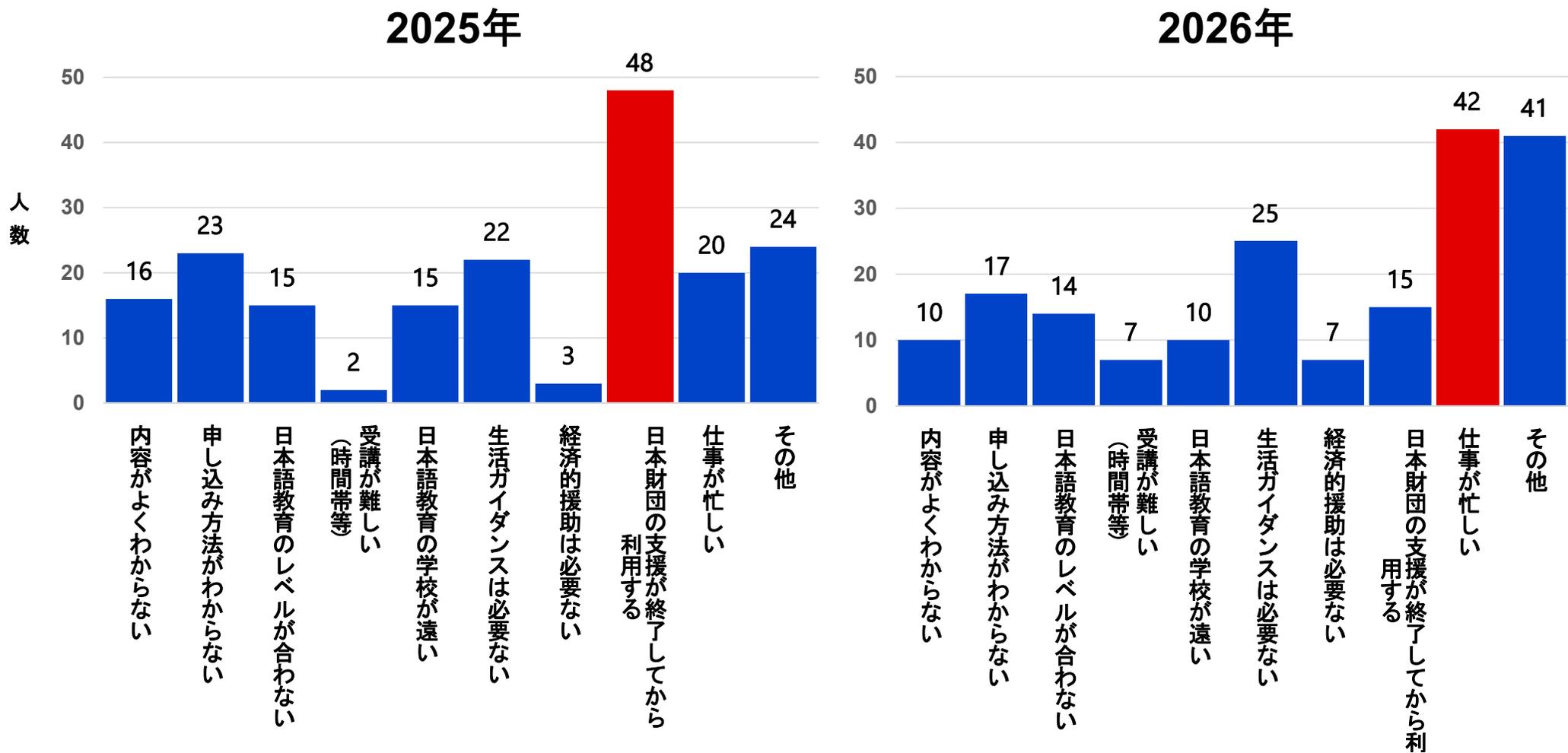
2026年



■ 受講した ■ 受講していない

2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.定住支援プログラムを受講しない理由は何ですか？

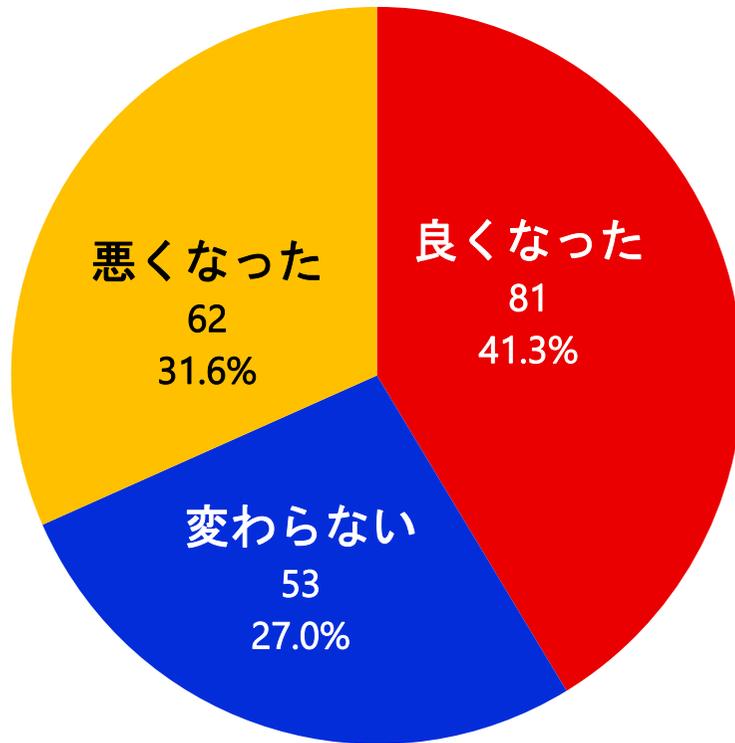


2026年1月実施の避難者アンケート結果より

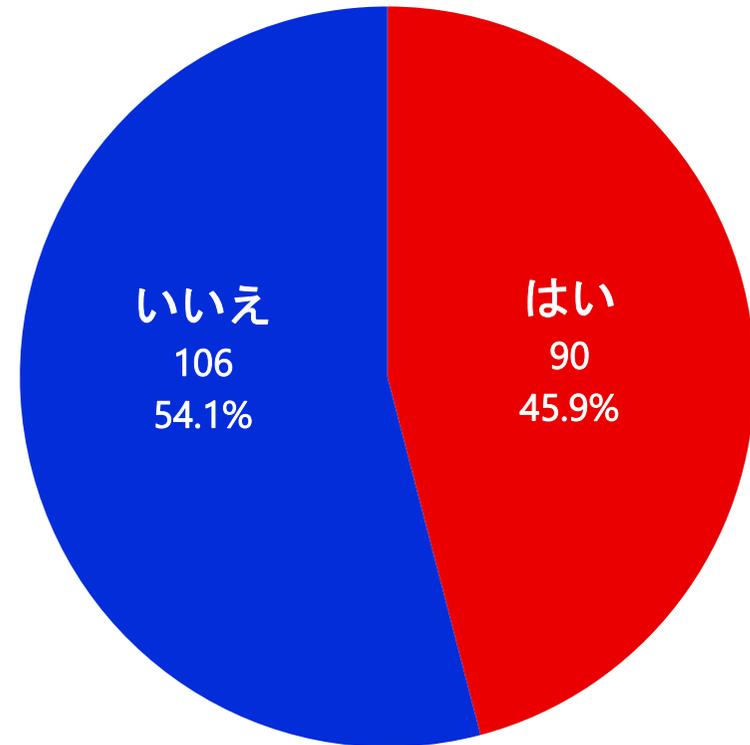


みつかる。つながる。よくなっていく。

Q.来日時と比べて**現在の健康状態**は
どうですか？

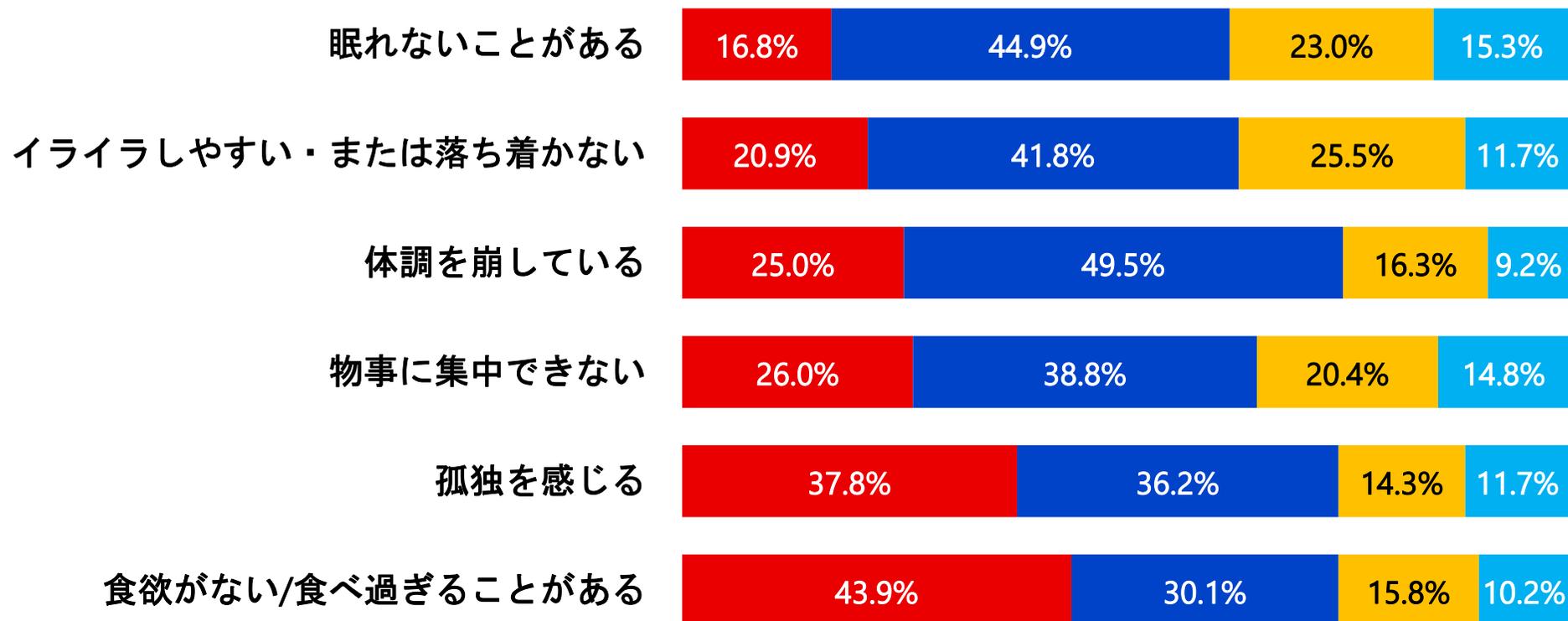


Q. 現在、**日常的に通院**していますか？



2026年1月実施の避難者アンケート結果より

Q.ここ2週間の状況で当てはまるものを教えてください



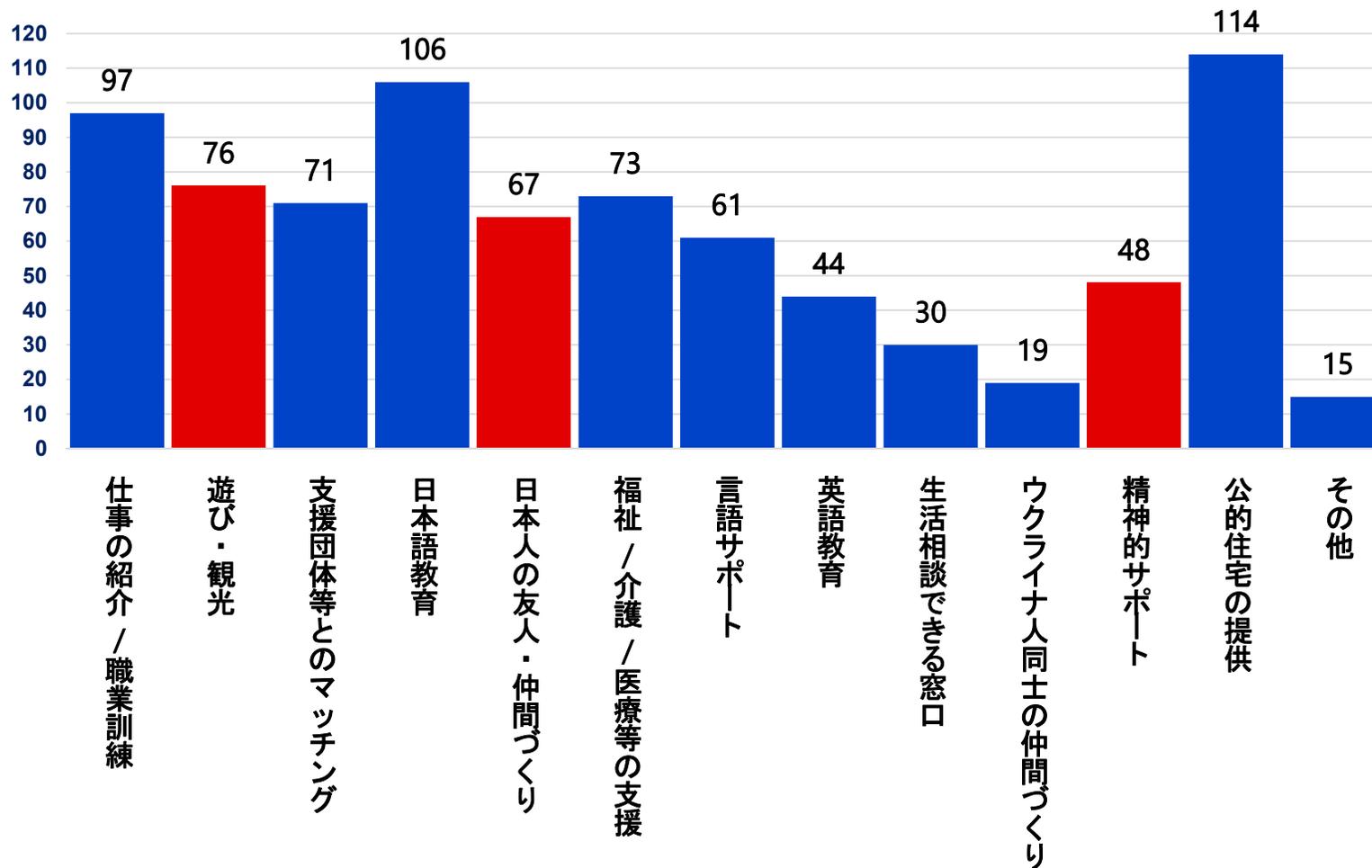
■ 体験しなかった ■ ときどきあった ■ 比較的多くあった ■ ほとんど毎日

2026年1月実施の避難者アンケート結果より



みつかる。つながる。よくなっていく。

Q.今必要な支援を教えてください





みつかる。つながる。よくなっていく。

